

201217013A (1/2)

---

高齢者における  
心不全在宅医療に関する研究

---

厚生労働科学研究費補助金  
長寿科学総合研究事業

2012年度 総括・分担研究報告書

No.1

平成25 (2013) 年 5月

研究代表者：野出 孝一

佐賀大学医学部循環器内科・教授

## 研究報告書目次

### 目 次

I. 総括研究報告	
高齢者における心不全在宅医療に関する研究	1
野出 孝一	
(資料)	
HOMES-HFニュースレターVol.1	(2012年5月発行)
HOMES-HFニュースレターVol.2	(2012年6月発行)
HOMES-HFニュースレターVol.3	(2012年7月発行)
HOMES-HFニュースレターVol.4	(2012年8月発行)
HOMES-HFニュースレターVol.5	(2012年9月発行)
HOMES-HFニュースレターVol.6	(2012年10月発行)
HOMES-HFニュースレターVol.7	(2012年11月発行)
HOMES-HFニュースレターVol.8	(2012年12月発行)
HOMES-HFニュースレターVol.9	(2013年1月発行)
HOMES-HFニュースレターVol.10	(2013年2月発行)
HOMES-HFニュースレターVol.11	(2013年3月発行)
HOMES-HFニュースレターVol.12	(2013年4月発行)
HOMES-HFニュースレターVol.13	(2013年5月発行)
II. 分担研究報告	
1. 高齢者における心不全在宅医療に関する研究	23
琴岡 憲彦	
(資料)	
第1回HOMESモニタリングレポート	(2013年1月発行)
2. 高齢者における心不全在宅医療に関する研究	33
筒井 裕之	
(資料)	
General Self-Efficacy Scale GSES TEST質問用紙	
こころとからだの質問票	
MINNESOTA LIVING WITH HEART FAILURE QUESTIONNAIRE	
Mini-Mental State Examination (MMSE) 質問紙	
3. 高齢者における心不全在宅医療に関する研究	41
増山 理	
4. 高齢者における心不全在宅医療に関する研究	44
北風 政史	
5. 遠隔モニタリングシステムによる慢性心不全在宅管理研究	45
花岡 英紀	
5. 高齢者における心不全在宅医療に関する研究	47
山本一博	
III. 研究成果の刊行に関する一覧表	49

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）  
総括研究報告書

—高齢者における心不全在宅医療に関する研究—

研究代表者：野出 孝一（佐賀大学医学部循環器内科・教授）

### 研究要旨

高齢者心不全の特徴は再入院率が高いことであり、医学的な問題以外による心不全の悪化も多い。このため病院と在宅医療従事者の協調介入により再入院を防止し、入院期間を短縮させることが可能であると考えられ、結果的に心不全医療費の減少が期待できる。既に米国では、民間による電話回線を用いた心不全管理システムが存在し、加入者の診療コスト軽減が証明されている。本研究の目的は、ICT による遠隔モニタリングによって心不全の再入院率と入院期間、診療コストの削減が可能であるかを検証することである。平成 24 年度は、ICT による介入を継続する。介入の有無をランダムに割り付けし、再入院率、入院期間、死亡率、QOL、認知機能などの比較により、介入によって再入院率の低下、入院期間の短縮、および心不全診療の総コストが減少するかを検証する。

### A. 研究目的

心不全は先進国に共通した公衆衛生上の重大な問題である。心不全にかかるコストの 60~70%は入院診療に要するとされるが、心不全による入院の 44%は退院後 6 ヶ月以内の再入院である。反復する入院は、家族、医療・介護現場、行政にとって大きな負担課題となっており、心不全の再入院を予防し、入院期間を減少させることが急務となっている。

本邦でも看護師の訪問や電話により再入院を防ぐ試みが進行中であるが、この研究では月に 2 回の訪問と月に 1 回の電話による指導を行う。心不全増悪の予防には毎日の自己管理が重要であるが、再入院する患者の多くは高齢であり独居や老々介護など、月に 1 回程度の外来診療で安定した状態を長期間維持することが困難な状況にある。米国では、電話回線を通じて体重管理を毎日行うことで契約者の再入院率と医療費の削減を達成している企業が存在する。本邦ではこのような業態は存在せず、これを担う人材も育っていない。

本研究の目的は、在宅医療従事者を中心としたチーム医療による在宅心不全管理により、再入院率および入院期間の減少とコスト削減が得られるかを検証することである。定期的に教育の機会を

設け、在宅管理の標準プロトコルを作成し、診療の質の評価と患者情報の共有化のため IT ネットワーク構築を行う。標準プロトコルは飲水・体重管理と服薬管理などの低コストかつ実現可能な内容とする。在宅医療従事者の心不全診療レベルが向上することにより、再入院率の低下が期待される。入院施設にとっては、退院可能となる時期が早まることや、これまで退院困難であった患者が退院できるようになることが期待され、結果として入院日数が短縮する。再入院率の低下と入院日数の短縮により在宅診療にかかるコストが相殺され、結果として心不全診療コストが減少するという仮説を検証する。

### B. 研究方法

平成 24 年度は RCT を継続する。目標症例数は合計 420 例。心不全における遠隔モニタリングでは、患者自身に行動変容がみられなければ効果が低いことが報告されており、そのためにはコメディカルの関与が不可欠である。本研究では、看護師によるモニタリングデータを利用した外来指導の行動変容への効果と、タブレット型端末を用いた多施設、多職種間連携の可能性を検証する。また各施設において均質な患者指導を行うため、

コメディカルを対象に専門職によるコーチングを実施する。平成 25 年度に試験終了を予定しており、心不全による再入院率の低下、入院期間の短縮、および心不全診療の総コストが減少するかを検証する。本研究により、有効性が認められた場合には、在宅モニタリングシステムのインフラストラクチャー化を視野にいれて研究を進める。

(倫理面への配慮)

インターネットを利用したシステムを使用するため、個人情報の保護に配慮する。

### C. 研究結果

ICT を用いた遠隔モニタリングは既存の医療サービスではなく、本研究のために独自に設計したため安全性を最優先し、機器の使用法および外来での指導法について、各施設の医師および看護師に個別に説明を行った上で研究を開始したことから、全ての施設の準備が整うまでに時間を要したが、現在までに 129 例の症例登録が行われており、遠隔モニタリングを開始して既に一年以上が経過した症例もあるが、モニタリングに関連する事故はなく、通信の安定性やモニタリングの実施可能性が証明されたと考えられる。また、遠隔モニタリングを行うことにより、佐賀大学では多職種連携が生まれ、また施設間の意思疎通も向上している。特に患者、家族と医療従事者間の意思疎通が向上し、自己管理意識の向上が得られていると考えられた。

### D. 考察

本研究は当初、大学病院・総合病院・地域のクリニック・訪問看護師、介護福祉士まで幅広く連携を行うことを想定していたが、慢性心不全の通院患者では一般的に介護度が低いため、全ての患者に訪問を取り入れることが困難であった。佐賀大学での経験から、遠隔モニタリングにより患者・家族と医療従事者間のコミュニケーションが向上することから、安心を提供することができること、医療従事者間の連携が促進され、教育効果が生まれることや、患者の自己管理意識が向上す

ることが示唆されたが、実用化のためには有効性および費用対効果を証明する必要があると考えられた。先行する欧米の大規模臨床試験では、これまで有効性は明らかになっていないが、試験方法についての反論も多い。本研究において我々は、遠隔モニタリングに patient-centered care の概念を取り入れることによって有効性を高める努力をし、これを多施設共同無作為化試験に盛り込んだ。また、患者の不安や自己効力感などの尺度も評価項目とした。試験の安全性および保険制度を考慮した結果、参加施設は地域のクリニックまでとした。遠隔モニタリングの有効性・安全性・費用対効果が明らかにできれば、これを在宅医療従事者全てが共有できるシステムへと発展させることが重要であり、本研究はそのための重要な足がかりとなる。

### E. 結論

慢性心不全患者における ICT を用いた遠隔モニタリングを一年以上に渡って実施することは可能であり、これにより多職種協働が促進され、医療従事者への教育効果も得られる。さらには患者・家族の安心感・自己管理意識の向上が示唆されるが、再入院率の低下による費用対効果を多施設共同無作為化比較試験によって証明することが、実用化の条件となると考えられる。

研究協力者：浅香真知子（リサーチレジデント）、長友大輔

### F. 健康危険情報

現時点で報告すべきと考えられる健康危険情報はない。

### G. 研究発表

#### 1. 論文発表

Kotooka N, Komatsu A, Takahashi H, Nonaka M, Kawaguchi C, Komoda H, Asaka M, Abe S, Taguchi I, Toyoda S, Nishiyama M, Inoue T, **Node K**. Predictive value of high-molecular weight adiponectin in subjects

with a higher risk of the development of metabolic syndrome: From a population based 5-year follow-up data. *Int J Cardiol.* 2012 Nov 26.. [Epub ahead of print]

Sakamoto Y, Oyama J, Ikeda H, Kuroki S, Gondo S, Iwamoto T, Uchida Y, Kodama K, Hiwatashi A, Shimomura M, Taguchi I, Inoue T, **Node K**; S-DOG investigators. Effects of sitagliptin beyond glycemic control: focus on quality of life. *Cardiovasc Diabetol.* 2013 Feb 21;12:35.

Takano H, Mizuma H, Kuwabara Y, Sato Y, Shindo S, Kotooka N, Fujimatsu D, Kobayashi Y, Inoue T, **Node K**, Komuro I; PEARL Study Investigators. Effects of pitavastatin in Japanese patients with chronic heart failure: the Pitavastatin Heart Failure Study (PEARL Study). *Circ J.* 2013;77(4):917-25.

## 2. 学会発表

**野出孝一**:慢性心不全のICTによる遠隔モニタリング(HOMES-HF). 第33回日本循環器制御医学学会総会. 2012.6.3. プログラム・抄録集:30

## H. 知的財産権の出願・登録状況

### 1. 特許取得

特になし

### 2. 実用新案登録

特になし

### 3. その他

特になし

2012年5月発行 HOMES-HF 研究事務局  
 (佐賀大学医学部循環器内科)  
 TEL:0952-34-2364  
 FAX:0952-34-2089

# HOMES-HF研究 ニュース Vol.1

## 目次

- 1 ごあいさつ
- 2 研究代表者より
- 3 スタッフ紹介
- 4 症例数

## 1. ごあいさつ (佐賀大学医学部循環器内科 廣瀧)

薫風の候、時下ますますご清祥の段 お慶び申し上げます。

平素より HOMES-HF 研究にご協力いただき、御礼申し上げます。

本研究のご報告も兼ねまして、今後定期的に先生方へニュースレターを送付させていただくこととなりました。

また、佐賀大学医学部循環器内科のホームページ上に本研究に関する実施計画書や症例報告書などを掲載しております。ご一読いただけましたら幸いです。

なお、本研究の運営等に関しお気づきの点などございましたら、研究事務局までご連絡いただけますと大変有り難く存じます。

先生方のお役に立てるよう努めて参りますので、今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

研究事務局:廣瀧

## お知らせ

2012年5月～  
 佐賀大学医学部循環器内科 HP に  
 HOMES-HF 研究のコーナーを設けま  
 した。

<アドレス>

<http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/cv/research/homes-hf-study/>

関係者専用ページに、症例報告書や  
 モニタリング依頼書、アンケート等  
 の資料を掲載しておりますので、  
 適宜プリントアウトしてご利用いた  
 だけます。

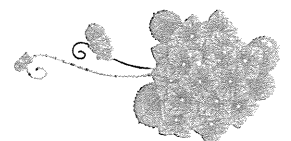
## 2. 研究代表者より (佐賀大学医学部循環器内科 野出教授)

先生方には平素より、HOMES-HF 研究に御協力を賜り、誠に有難うございます。

本研究は、高齢化社会に伴い、今後増加する慢性心不全を ICT で遠隔管理することで、再入院を抑制できるか否かを検証するものです。心不全による再入院を主要評価項目にいたしますので、全国的な多施設での 400 例の症例が必要です。

各施設での多くの症例登録を期待しております。

心不全治療を病院から地域へと移行させる試金石ともなる研究でもあり、今後も御支援を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。



### 3. スタッフ紹介(佐賀大学医学部循環器内科)

#### 琴岡 憲彦先生 (研究実施責任者)

HOMES-HF 研究では大変お世話になっております。昨年より慣れないスタッフで準備を行って参りましたが、皆様のご協力により何とかエントリーを開始することが出来ました。現在多くの先生方に着々と準備していただいております。近日中にほとんどの御施設でエントリーを開始していただくことが出来る見込みです。まだ数名の患者様ではありますが、システム上の大きなトラブルもなく順調にモニタリングを遂行いたしております。

また、HOMES-HF 研究では外来における看護師の役割を重視しており、そのことをお伝えすべく現在全国を行脚しております。日常の業務に加えて御負担をおかけいたしますが、ほとんどの御施設において看護師の方々が熱心に取り組んでいただく体制を作っていただき大変感謝しております。

HOMES-HF 研究では皆様に大変お手数をおかけしますが、何卒趣旨をお汲み取りいただき多くの患者様にご参加いただきますよう、お願い申し上げます。

#### 遠隔モニタリングセンター (モニタリング看護師: 森田喜久美、中溝美雅、西山愛)

この度は、各共同研究施設の先生方には HOMES-HF 研究にご理解・ご協力いただき、誠に有難うございます。遠隔モニタリングセンターでは、昨年末より施設登録の終了した施設から順次症例が登録され、現在 5 名の患者さまのモニタリングを行っているところです。

先生方におかれましては、日常業務で多忙を極めておられる中、研究へのご協力は本当に大変なことと認識しております。その為、今後研究を進めるにあたりご不明な点などがあれば電話・メールどちらでも構いませんのでお知らせいただければ迅速に対応したいと思っております。

研究も始まったばかりで不慣れなことも多々あり、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、今後ともご協力の程よろしくお願いいたします。

### 4. 症例数(2012年5月25日現在) ※症例登録 2013年8月31日まで

2012年5月25日現在での症例数をご報告いたします。

目標症例数 420 例(通常外来群: 210 例/遠隔モニタリング群 210 例)

倫理委員会承認/症例数

倫理委員会承認/症例数

北海道大学病院	承認待		医療法人社団 勝谷医院	○	
東北大学病院	承認待		鳥取大学医学部附属病院	○	3
自治医科大学附属さいたま医療センター	承認待		島根大学医学部附属病院	承認待	
自治医科大学附属病院	承認待		九州厚生年金病院	○	
獨協医科大学病院	○	1	済生会福岡総合病院	○	
日本医科大学千葉北総病院	○		古賀病院21	○	1
聖路加国際病院	○		佐賀県立病院好生館	○	
東邦大学医療センター大橋病院	○		佐賀大学医学部附属病院	○	5
北里大学病院	承認待		済生会唐津病院	○	
国立循環器病研究センター病院	承認待		伊万里有田共立病院	○	
兵庫医科大学病院	○		大分大学医学部附属病院	○	
兵庫県立尼崎病院	承認待		垂水市立医療センター垂水中央病院	承認待	
				症例数合計 10 例	

2012年6月発行 HOMES-HF 研究事務局  
 (佐賀大学医学部循環器内科)  
 TEL:0952-34-2364  
 FAX:0952-34-2089

# HOMES-HF研究 ニュース Vol.2

平素より HOMES-HF 研究にご協力賜わり、心より御礼申し上げます。

ニュースレターVol.2を発行いたします。

先生方のご協力により施設登録数・症例数ともに伸びて参りました。

引き続き、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

なお、別添にて研究開始方法についてご案内しております。ご一読いただけますと幸いです。

## 1. お知らせ

2012年9月14日(金) 19:00~20:30  
 HOMES-HF 研究 第2回全体会議(金沢市)

第60回日本心臓病学会学術集会にあわせまして上記会議を開催いたします。

研究分担者の先生方中心にご案内を発送いたしますので、  
 ご確認いただきますようお願い申し上げます。

## 2. 症例数(2012年6月25日現在) ※症例登録 2013年8月31日まで

2012年6月25日現在での症例数をご報告いたします。

目標症例数 420例(通常外来群:210例/遠隔モニタリング群 210例)

倫理委員会承認/症例数

倫理委員会承認/症例数

北海道大学病院	承認待		医療法人社団 勝谷医院	○	
東北大学病院	○		鳥取大学医学部附属病院	○	5
自治医科大学附属さいたま医療センター	○	1	島根大学医学部附属病院	○	
自治医科大学附属病院	承認待		九州厚生年金病院	○	
獨協医科大学病院	○	1	済生会福岡総合病院	○	
日本医科大学千葉北総病院	○	1	古賀病院21	○	1
聖路加国際病院	○		佐賀県立病院好生館 (えとう内科、ひさのう循環器内科)	○	
東邦大学医療センター大橋病院	○		佐賀大学医学部附属病院	○	8
北里大学病院	承認待		済生会唐津病院	○	1
国立循環器病研究センター病院	承認待		伊万里有田共立病院	○	
兵庫医科大学病院	○		大分大学医学部附属病院	○	1
兵庫県立尼崎病院	○		垂水市立医療センター垂水中央病院	○	
				症例数合計 19例	



2012年7月発行 HOMES-HF 研究事務局  
 (佐賀大学医学部循環器内科)  
 TEL:0952-34-2364  
 FAX:0952-34-2089

# HOMES-HF研究 ニュース Vol.3

暑中お見舞い申し上げます。  
 平素より HOMES-HF 研究にご協力賜わり、心より御礼申し上げます。  
 先生方のご協力により、症例数が伸びて参りました。  
 引き続き、ご協力賜わりますようお願い申し上げます。



## 1. お盆期間中(8/13~8/16)の業務対応につきまして

お盆期間中(8/13~8/16)は、研究事務局・遠隔モニタリングセンター共に通常通り業務しております。

### 【各種照会先】

- ◆施設登録・症例登録、研究全般に関するお問い合わせ ⇒ 研究事務局(廣瀧)
  - ◆モニタリング・機器に関するお問い合わせ ⇒ 遠隔モニタリングセンター(森田・西山)
- TEL: 0952-34-2169  
 FAX: 0952-34-2169

### 【受付時間】

平日: 月~金(9:00~17:00) (土日祝・年末年始除く)

## 2. 症例数(2012年7月25日現在) ※症例登録 2013年8月31日まで

2012年7月25日現在での症例数をご報告いたします。

目標症例数 420例(通常外来群:210例/遠隔モニタリング群 210例)

倫理委員会承認/症例数

倫理委員会承認/症例数

北海道大学病院	承認待		医療法人社団 勝谷医院	○	
東北大学病院	○		鳥取大学医学部附属病院	○	5
自治医科大学附属さいたま医療センター	○	2	島根大学医学部附属病院	○	1
自治医科大学附属病院	承認待		九州厚生年金病院	○	
獨協医科大学病院	○	1	済生会福岡総合病院	○	
日本医科大学千葉北総病院	○	1	古賀病院21	○	1
聖路加国際病院	○		佐賀県立病院好生館 (えとう内科、ひさのう循環器内科)	○	1
東邦大学医療センター大橋病院	○		佐賀大学医学部附属病院	○	8
北里大学病院	承認待		済生会唐津病院	○	1
国立循環器病研究センター病院	承認待		伊万里有田共立病院	○	
兵庫医科大学病院	○		大分大学医学部附属病院	○	1
兵庫県立尼崎病院	○		垂水市立医療センター垂水中央病院	○	1

症例数合計 23例 (前月までの症例数:19例)

2012年8月発行 HOMES-HF 研究事務局  
 (佐賀大学医学部循環器内科)  
 TEL:0952-34-2364  
 FAX:0952-34-2089

# HOMES-HF研究 ニュース Vol.4

残暑御見舞申し上げます。  
 平素より HOMES-HF 研究にご協力賜わり、心より御礼申し上げます。  
 先生方のご協力により、症例数が伸びて参りました。  
 引き続き、ご協力賜わりますようお願い申し上げます。



## 1. 第2回全体会議 会場につきまして

日時：平成24年 9月14日(金) 18:30~19:10  
 会場：石川県立音楽堂 B1F 交流ホール 打合せ会場2  
 ※当日は、打合せ会場前に案内板を出しております。

会議に出席される先生方には会場案内を同封しております。  
 ご確認の程、よろしくお願い申し上げます。

## 2. 症例数(2012年8月20日現在) ※症例登録 2013年8月31日まで

2012年8月20日現在での症例数をご報告いたします。

目標症例数 420例(通常外来群:210例/遠隔モニタリング群 210例)

倫理委員会承認/症例数

倫理委員会承認/症例数

北海道大学病院	承認待		医療法人社団 勝谷医院	○	
東北大学病院	○		鳥取大学医学部附属病院	○	5
自治医科大学附属さいたま医療センター	○	3	島根大学医学部附属病院	○	2
自治医科大学附属病院	承認待		九州厚生年金病院	○	
獨協医科大学病院	○	1	済生会福岡総合病院	○	
日本医科大学千葉北総病院	○	1	古賀病院21	○	1
聖路加国際病院	○		佐賀県立病院好生館 (えとう内科、ひさのう循環器内科)	○	1
東邦大学医療センター大橋病院	○		佐賀大学医学部附属病院	○	8
北里大学病院	承認待		済生会唐津病院	○	1
国立循環器病研究センター病院	承認待		伊万里有田共立病院	○	
兵庫医科大学病院	○		大分大学医学部附属病院	○	1
兵庫県立尼崎病院	○		垂水市立医療センター垂水中央病院	○	2

症例数合計 26例 (前月までの症例数:23例)

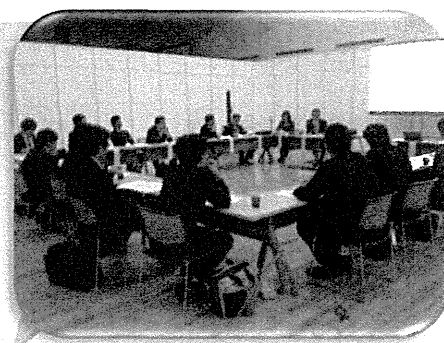
2012年9月発行 HOMES-HF 研究事務局  
 (佐賀大学医学部循環器内科)  
 TEL:0952-34-2364  
 FAX:0952-34-2089

# HOMES-HF研究 ニュース Vol.5

平素より HOMES-HF 研究にご協力賜わり、心より御礼申し上げます。  
 先日はお忙しい中、第2回全体会議に参加いただきましてありがとうございます。  
 ございました。引き続き、ご協力賜わりますようお願い申し上げます。

## 1. 第2回全体会議 結果報告

2012年9月14日(金) 18:30~19:10  
 石川県立音楽堂にて第2回全体会議を行いました。  
 共同研究施設から多くの先生方にお集まりいただき、  
 様々なご意見を頂戴いたしました。  
 別添にて議事録を送付しております。  
 ご一読いただけましたら幸いです。



## 2. 症例数(2012年9月25日現在) ※症例登録 2013年8月31日まで

2012年9月25日現在での症例数をご報告いたします。

目標症例数 420例(通常外来群:210例/遠隔モニタリング群 210例)

倫理委員会承認/症例数

倫理委員会承認/症例数

北海道大学病院	○		医療法人社団 勝谷医院	○	
東北大学病院	○		鳥取大学医学部附属病院	○	5
自治医科大学附属さいたま医療センター	○	4	島根大学医学部附属病院	○	2
自治医科大学附属病院	承認待		九州厚生年金病院	○	1
獨協医科大学病院	○	1	済生会福岡総合病院	○	
日本医科大学千葉北総病院	○	1	古賀病院21	○	1
聖路加国際病院	○		佐賀県立病院好生館 (ひさのう循環器内科、えとう内科)	○	1
東邦大学医療センター大橋病院	○		佐賀大学医学部附属病院 (ひらまつ病院)	○	10
北里大学病院	○		済生会唐津病院	○	3
国立循環器病研究センター病院	○		伊万里有田共立病院	承認待	
兵庫医科大学病院	○		大分大学医学部附属病院	○	1
兵庫県立尼崎病院	○		垂水市立医療センター垂水中央病院	○	2

症例数合計 32例 (前月までの症例数:26例)

2012年10月発行 HOMES-HF 研究事務局  
 (佐賀大学医学部循環器内科)  
 TEL:0952-34-2364  
 FAX:0952-34-2089

# HOMES-HF研究 ニュース Vol.6

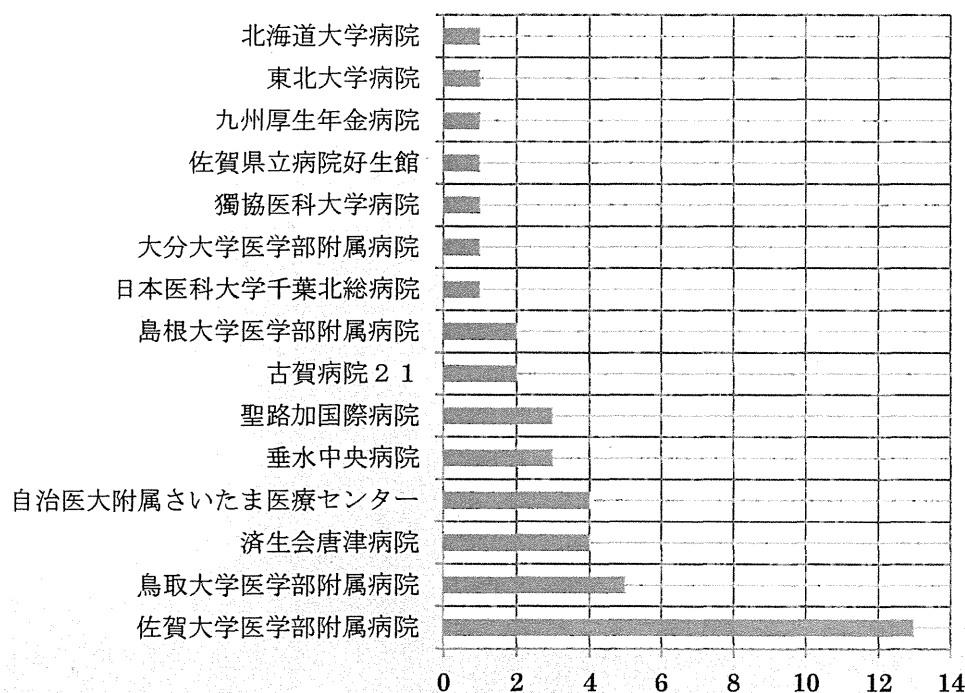
平素より HOMES-HF 研究にご協力賜わり、心より御礼申し上げます。  
 先生方のご協力により、症例数が伸びて参りました。  
 引き続き、ご協力賜わりますようお願い申し上げます。



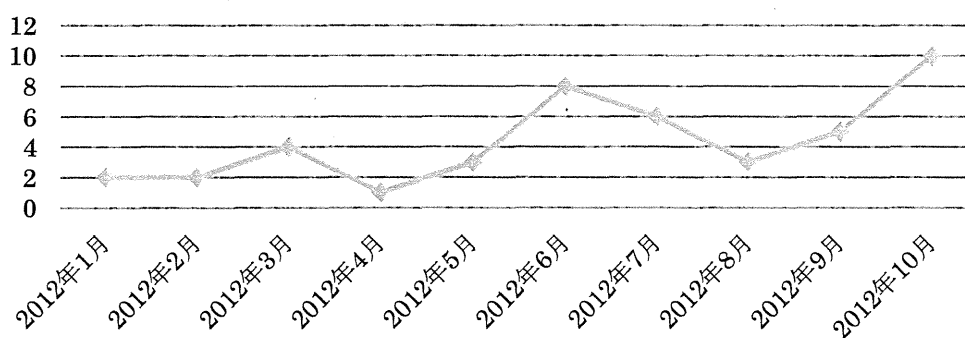
## 症例数(2012年10月22日現在)・・・43例

### 症例数

目標症例数 420例 (通常外来群210/モニタリング群210)



### 月別症例登録状況



合計 43例(先月:32例)

※症例登録 2013/8/31 まで

順不同

2012年11月発行 HOMES-HF 研究事務局  
 (佐賀大学医学部循環器内科)  
 TEL:0952-34-2364  
 FAX:0952-34-2089

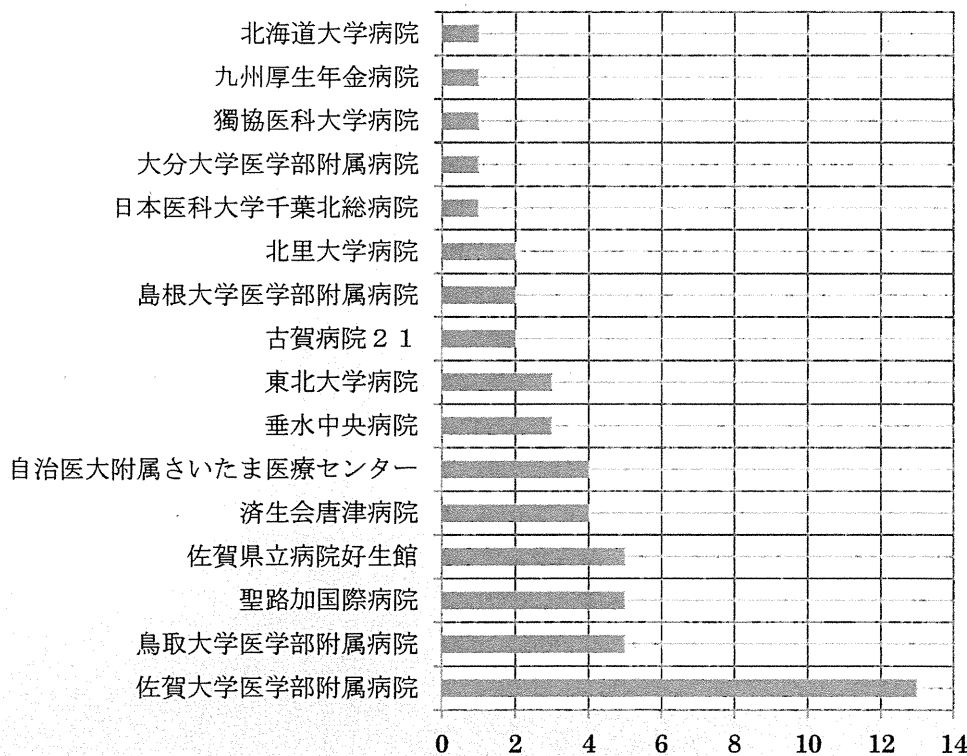
# HOMES-HF研究 ニュース Vol.7

平素より HOMES-HF 研究にご協力賜わり、心より御礼申し上げます。  
 先生方のご協力により、症例数が伸びて参りました。  
 引き続き、ご協力賜わりますようお願い申し上げます。



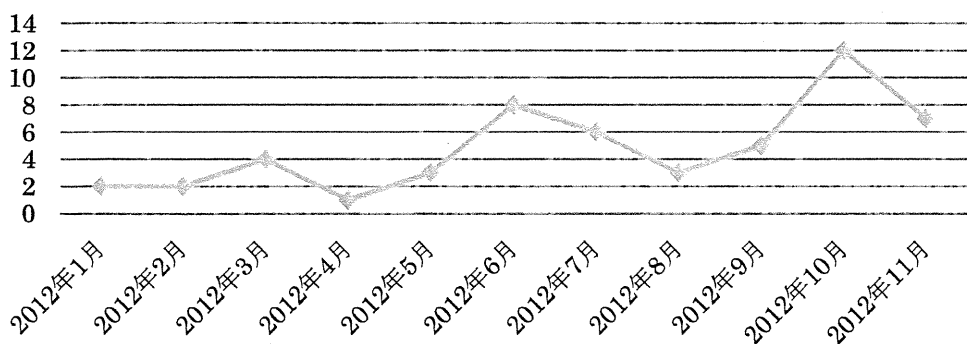
## 症例数(2012年11月15日現在)・・・53例

目標症例数 420例 (通常外来群210/モニタリング群210)



共同研究施設	症例数
北海道大学病院	1
東北大学病院	3
自治医科大学附属 さいたま医療センター	4
自治医科大学附属病院	
獨協医科大学病院	1
日本医科大学 千葉北総病院	1
聖路加国際病院	5
東邦大学医療センター 大橋病院	
北里大学病院	2
国立循環器病研究センタ 一病院	
兵庫医科大学病院	
兵庫県立尼崎病院	
医療法人社団 勝谷医院	
鳥取大学医学部附属 病院	5
島根大学医学部附属 病院	2
九州厚生年金病院	1
済生会福岡総合病院	
古賀病院 21	2
佐賀県立病院好生館 (ひさのう内科・えとう内 科)	5
佐賀大学医学部附属 病院(ひらまつ病院)	13
済生会唐津病院	4
伊万里有田共立病院	
大分大学医学部附属 病院	1
垂水中央病院	3

## 月別症例登録状況



合計 53例(先月:43例)

順不同

※症例登録 2013/8/31 まで

## HOMES-HF研究 ニュース Vol.8

2012年12月発行 HOMES-HF 研究事務局  
 (佐賀大学医学部循環器内科)  
 TEL:0952-34-2364  
 FAX:0952-34-2089

早いもので、年末のご挨拶をさせて頂く時期となりました。  
 本年は多くの先生方に多大なるご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。  
 なお、年末年始の休業期間は下記の通りです。

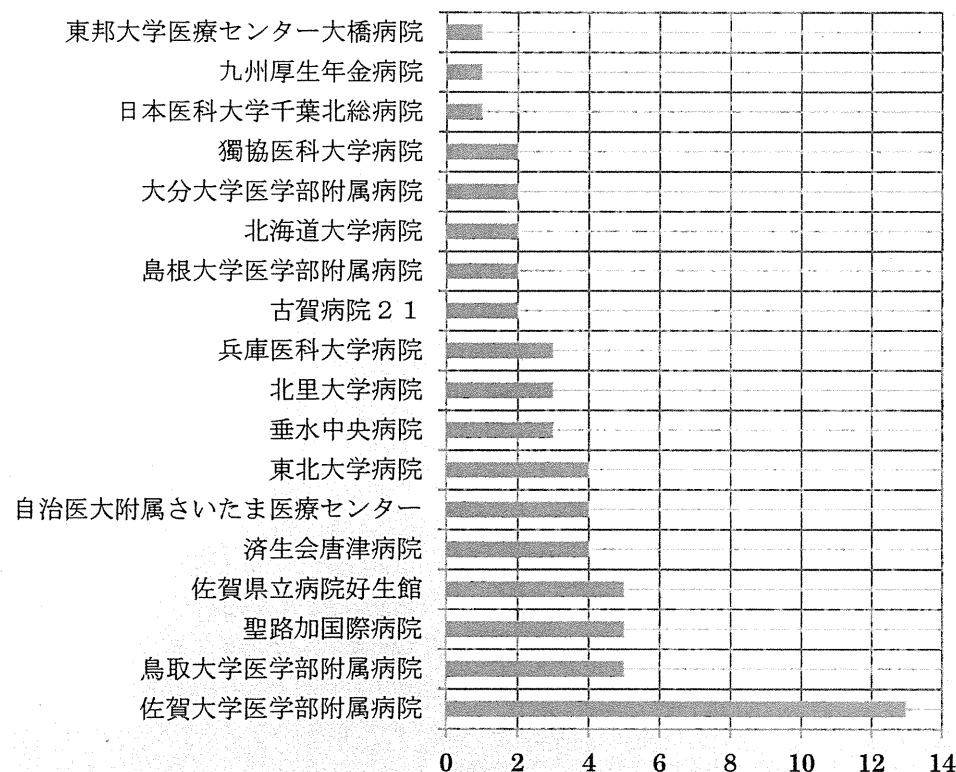
12月29日(土)～1月3日(木)

来年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 症例数(2012年12月14日現在)・・・62例

※12/14 9:00 取得データ

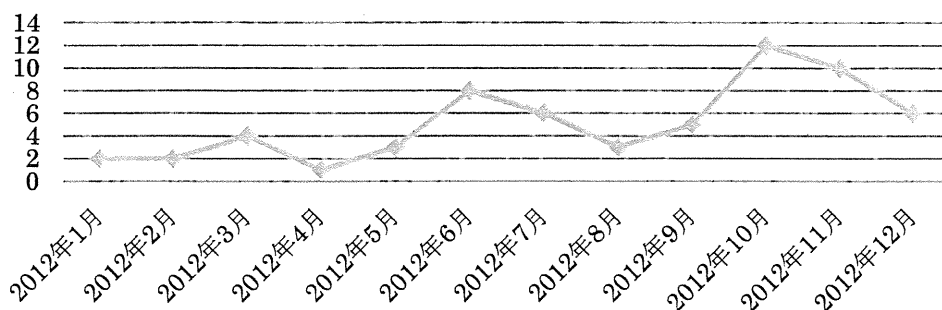
目標症例数 420例 (通常外来群210/モニタリング群210)



共同研究施設	症例数
北海道大学病院	2
東北大学病院	4
自治医科大学附属 さいたま医療センター	4
自治医科大学附属病院	
獨協医科大学病院	2
日本医科大学 千葉北総病院	1
聖路加国際病院	5
東邦大学医療センター 大橋病院	1
北里大学病院	3
国立循環器病研究センタ 一病院	
兵庫医科大学病院	3
兵庫県立尼崎病院	
医療法人社団 勝谷医院	
鳥取大学医学部附属 病院	5
島根大学医学部附属 病院	2
九州厚生年金病院	1
済生会福岡総合病院	
古賀病院21	2
佐賀県立病院好生館 (ひさのう内科・えとう内 科)	5
佐賀大学医学部附属 病院(ひらまつ病院)	13
済生会唐津病院	4
伊万里有田共立病院	
大分大学医学部附属 病院	2
垂水中央病院	3

合計 62例(先月:53例)

## 月別症例登録状況



※症例登録 2013/8/31 まで

順不同

## HOMES-HF研究 ニュース Vol.9

2013年1月発行 HOMES-HF 研究事務局  
 (佐賀大学医学部循環器内科)  
 TEL.0952-34-2364  
 FAX.0952-34-2089

新年あけましておめでとうございます。

去年は研究を本格的に始動することができ、先生方には深く感謝しております。

本年も引き続き研究の進展に向けて邁進して参りますので、御指導の程、よろしくお  
 願い申し上げます。

＜第1回 HOMES-HF 研究モニタリングレポートの送付＞

本研究では、千葉大データセンターで収集される症例報告書等の記録に基づく中央モニタリング  
 によってプロトコル遵守を確認させていただいております。

つきましては今回、2012年1月1日～2012年12月31日までの研究進捗状況を記載した  
 モニタリングレポートを送付いたしますので、ご一読いただけましたら幸いです。

＜事前のお知らせ＞

来月2月に症例登録システムのメンテナンスを行うため、症例登録を停止いたします。

2月1日(金) 9:00～14:00 および 2月中旬の土日終日

先生方にはご迷惑をおかけいたします。土日の日程が確定次第、再度お知らせいたします。  
 (※佐賀大学の症例登録センターでも登録できませんのでご注意ください)

症例数(2013年1月21日現在)・・・80例

※1/21 9:00 取得データ

順不同

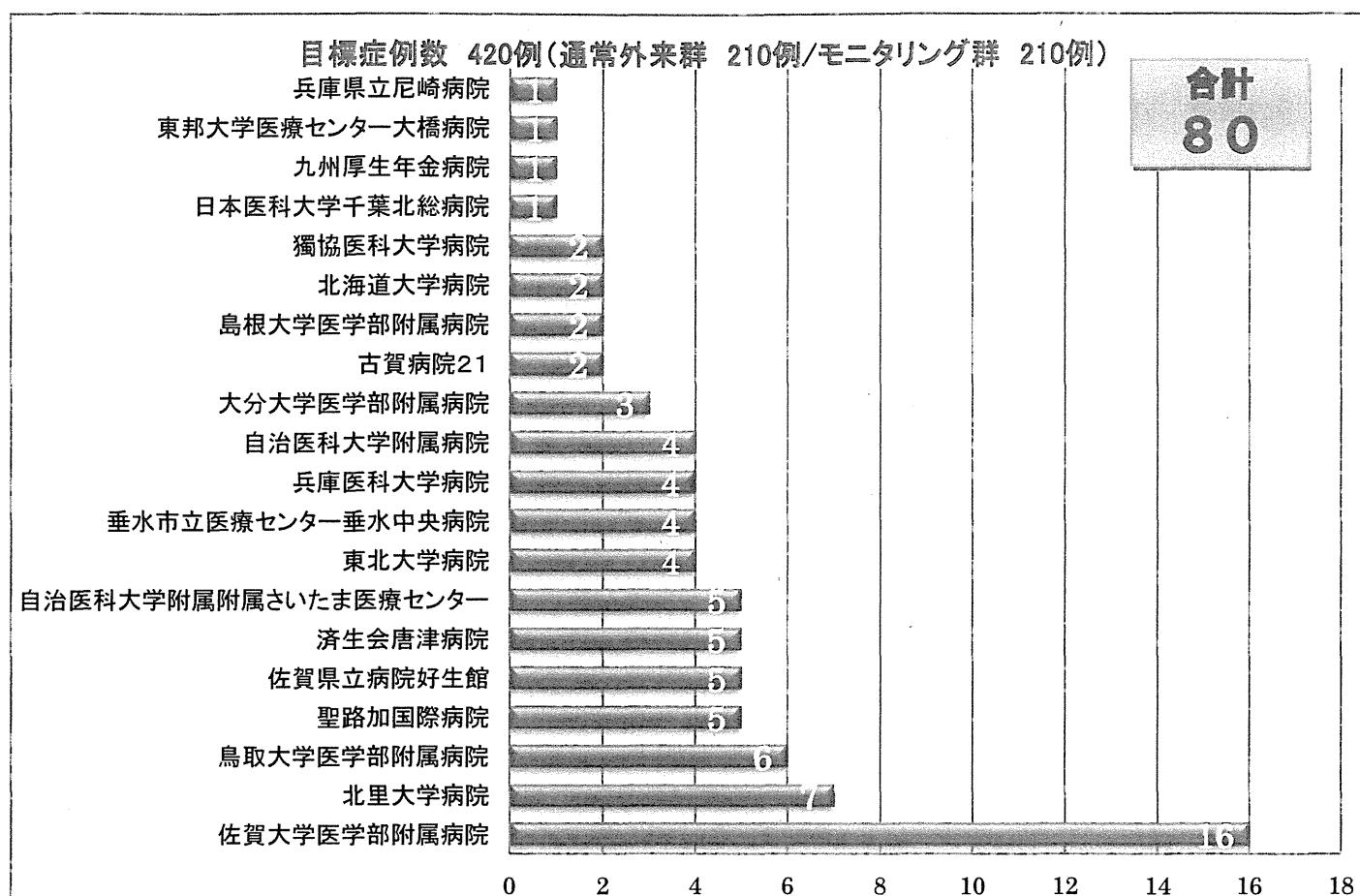
北海道大学病院	2	島根大学医学部附属病院	2
東北大学病院	4	九州厚生年金病院	1
自治医科大学附属さいたま医療センター	5	済生会福岡総合病院	
自治医科大学附属病院	4	古賀病院 21	2
獨協医科大学病院	2	佐賀県立病院好生館	5
日本医科大学千葉北総病院	1	(ひさのう内科・えとう内科)	
国際医療福祉大学病院		佐賀大学医学部附属病院	16
聖路加国際病院	5	(ひらまつ病院)	
東邦大学医療センター大橋病院	1	済生会唐津病院	5
北里大学病院	7	伊万里有田共立病院	
国立循環器病研究センター		大分大学医学部附属病院	3
兵庫医科大学病院	4	垂水市立医療センター垂水中央病院	4
兵庫県立尼崎病院	1		
医療法人社団 勝谷医院			
鳥取大学医学部附属病院	6	<b>合計</b>	<b>80</b>

前回: 62例

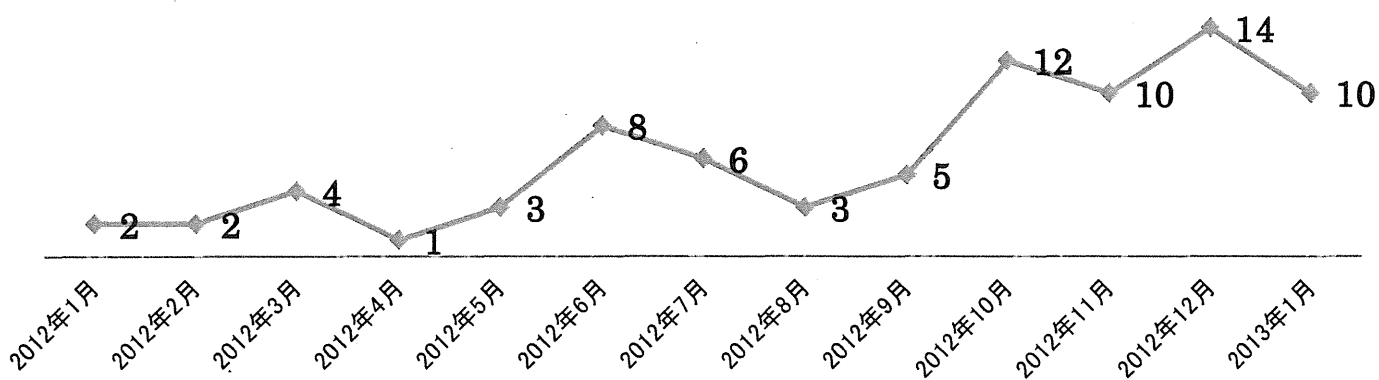
※目標症例数 420例 (通常外来群 210例 / モニタリング群 210例)

※症例登録 2013/8/31 まで





月別症例登録状況



1例目の登録から早1年が経過いたします。1年後の調査項目は登録時同様、項目が多くなっております。また別途、医療費調査のご相談もさせていただきますので、御協力よろしくお願いいたします。

登録後1年を経過した後も、試験終了までイベント・有害事象の観察を継続いただきますようお願いいたします。

また、イベント報告後も、試験終了まで可能な限りイベント・有害事象の観察を継続いただきますようお願いいたします。



## HOMES-HF研究 ニュース Vol.10

2013年2月発行 HOMES-HF 研究事務局  
 (佐賀大学医学部循環器内科)  
 TEL:0952-34-2364  
 FAX:0952-34-2089

平素より HOMES-HF 研究に御協力賜り、心より御礼申し上げます。  
 先生方の御協力により、症例数が伸びて参りました。  
 引き続き、御協力賜りますようお願い申し上げます。

### ＜症例登録停止のお知らせ＞

症例登録システムのメンテナンスのため、2月18日(月)9:00~13:00 症例登録停止を  
 いたしますが、3月初旬土日にも予定しております。

日程が確定いたしましたら、ご案内いたします。

先生方にはご迷惑をおかけいたしますが、何卒、ご理解ご協力の程お願い申し上げます。

(※佐賀大学の症例登録センターでも登録できませんのでご注意ください)

### ＜遠隔モニタリングセンターより＞

モニタリング群の患者様にお渡ししている体組成計・血圧計の電池(単3:8本)残量が少なくな  
 ってきているようですので、現時点でモニタリングを行っている患者様全てに交換用の電池を  
 発送いたします。今後、モニタリング群に割付けられた患者様には、予め交換用の電池を同封の  
 うえ、機器を発送いたします。

## 症例数(2013年2月15日現在)・・・93例

※2/15 9:00 取得データ 順不同

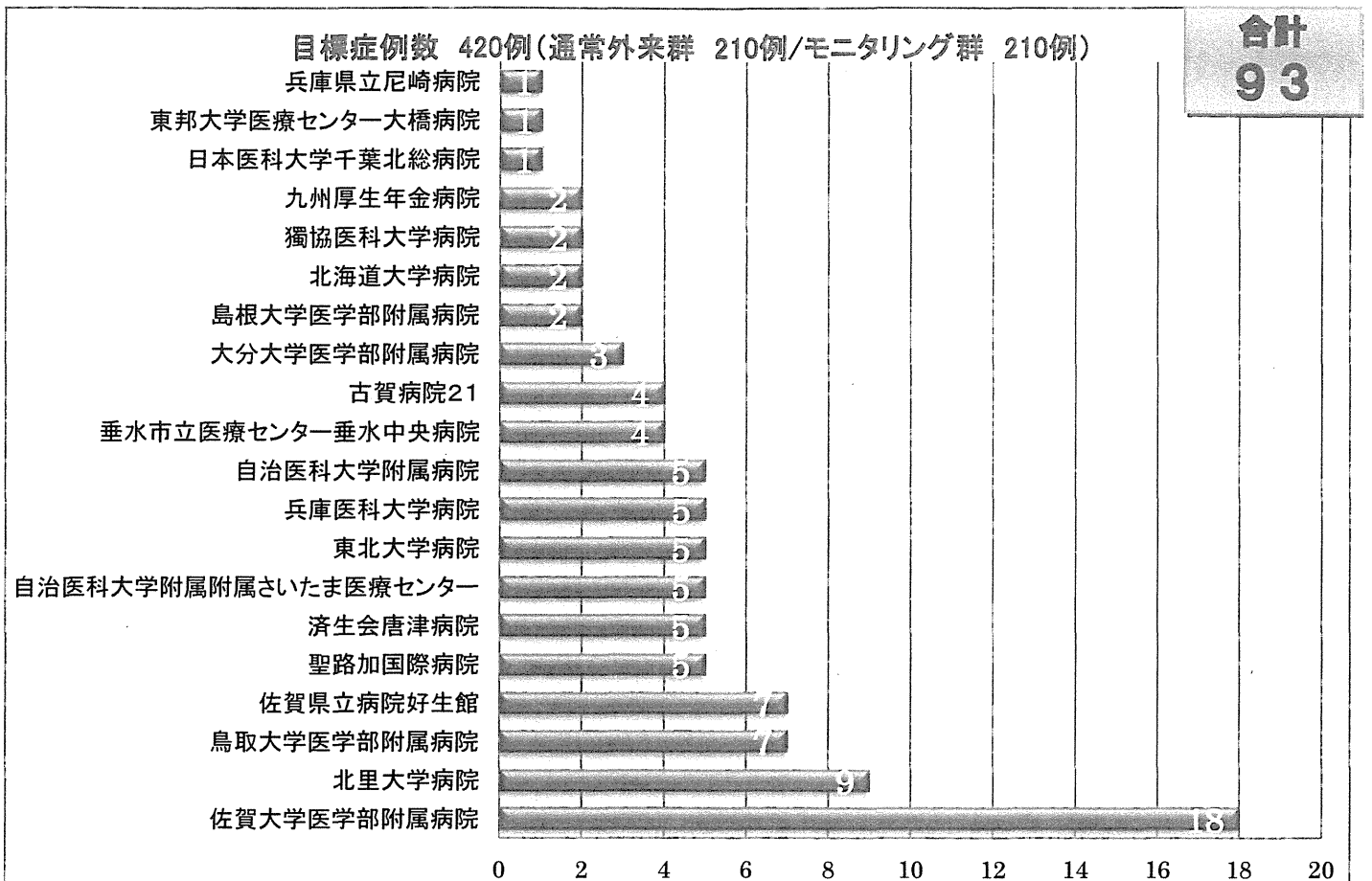
北海道大学病院	2	島根大学医学部附属病院	2
東北大学病院	5	九州厚生年金病院	2
自治医科大学附属さいたま医療センター	5	済生会福岡総合病院	
自治医科大学附属病院	5	古賀病院 21	4
獨協医科大学病院	2	佐賀県立病院好生館	7
日本医科大学千葉北総病院	1	(ひさのう内科・えとう内科)	
国際医療福祉大学病院		佐賀大学医学部附属病院	18
聖路加国際病院	5	(ひらまつ病院)	
東邦大学医療センター大橋病院	1	済生会唐津病院	5
北里大学病院	9	伊万里有田共立病院	
国立循環器病研究センター		大分大学医学部附属病院	3
兵庫医科大学病院	5	垂水市立医療センター垂水中央病院	4
兵庫県立尼崎病院	1		
医療法人社団 勝谷医院			
鳥取大学医学部附属病院	7		
		<b>合計</b>	<b>93</b>

前回:80例

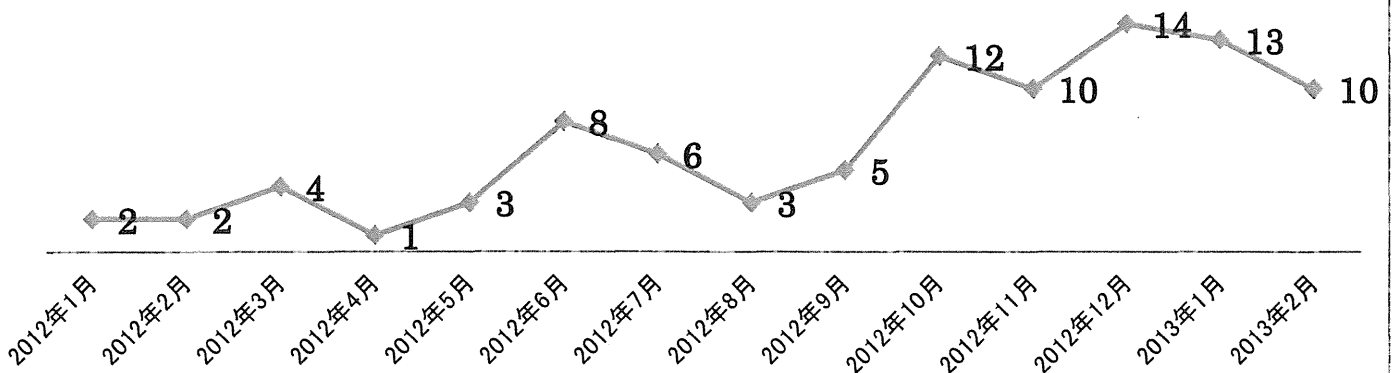
※目標症例数 420例 (通常外来群 210例 / モニタリング群 210例)

※症例登録 2013/8/31 まで





月別症例登録状況



1 例目の登録から早 1 年が経過いたします。1 年後の調査項目は登録時同様、項目が多くなって  
おります。また別途、医療費調査のご相談もさせていただきますので、御協力よろしくお願いいたします。

登録後 1 年を経過した後も、試験終了までイベント・有害事象の観察を継続いただきますよう  
お願いいたします。

また、イベント報告後も、試験終了まで可能な限りイベント・有害事象の観察を継続いただきま  
すようお願いいたします。

## HOMES-HF研究 ニュース Vol.11

2013年3月発行 HOMES-HF 研究事務局  
 (佐賀大学医学部循環器内科)  
 TEL:0952-34-2364  
 FAX:0952-34-2089

平素より HOMES-HF 研究に御協力賜り、心より御礼申し上げます。  
 先生方の御協力により、2013年2月末で100例目を達成いたしました。  
 目標の420例にはまだ長い道程が残されておりますが、まずは100例達成でき  
 ましたこと、改めて先生方に感謝申し上げます。  
 今回は、100例目を登録された自治医科大学 内科学講座循環器内科学部門 江口  
 和男先生にコメントを頂戴いたしました。



<100例達成に寄せて>

自治医科大学 内科学講座循環器内科学部門 江口和男先生より

HOMES-HF 研究 100例達成、おめでとうございます。開始が遅れていた自治医大循環器内科でも最近  
 やっと軌道に乗り、このプロジェクトに貢献できていることを光栄に思います。私は高血圧などの複数の  
 大規模研究に参加していますが、この研究は体制が最もしっかりしている研究の一つという印象を持っ  
 ています。また、薬などの介入がない分、患者さんに研究参加をお願いしやすく、遠隔モニタリング群にな  
 った場合は、「タニタの体重計と血圧計が来るからよかったね」、通常外来群になっても「面倒なことは  
 何もなくていいのでよかったね」というような会話をしています。いずれにしても、大学病院がフォロー  
 するため、患者さんにとっては安心感があるようです。遠隔モニタリング群になった患者さんは、喜んで  
 体重・血圧測定を行ってくれており、これはアドヒアランスの向上にかなり有効だろうと感じておりま  
 す。420例達成に少しでも近づけるよう、今後も協力させていただきたく思います。

## 症例数(2013年3月15日現在)・・・109例

※3/15 9:00 取得データ 順不同

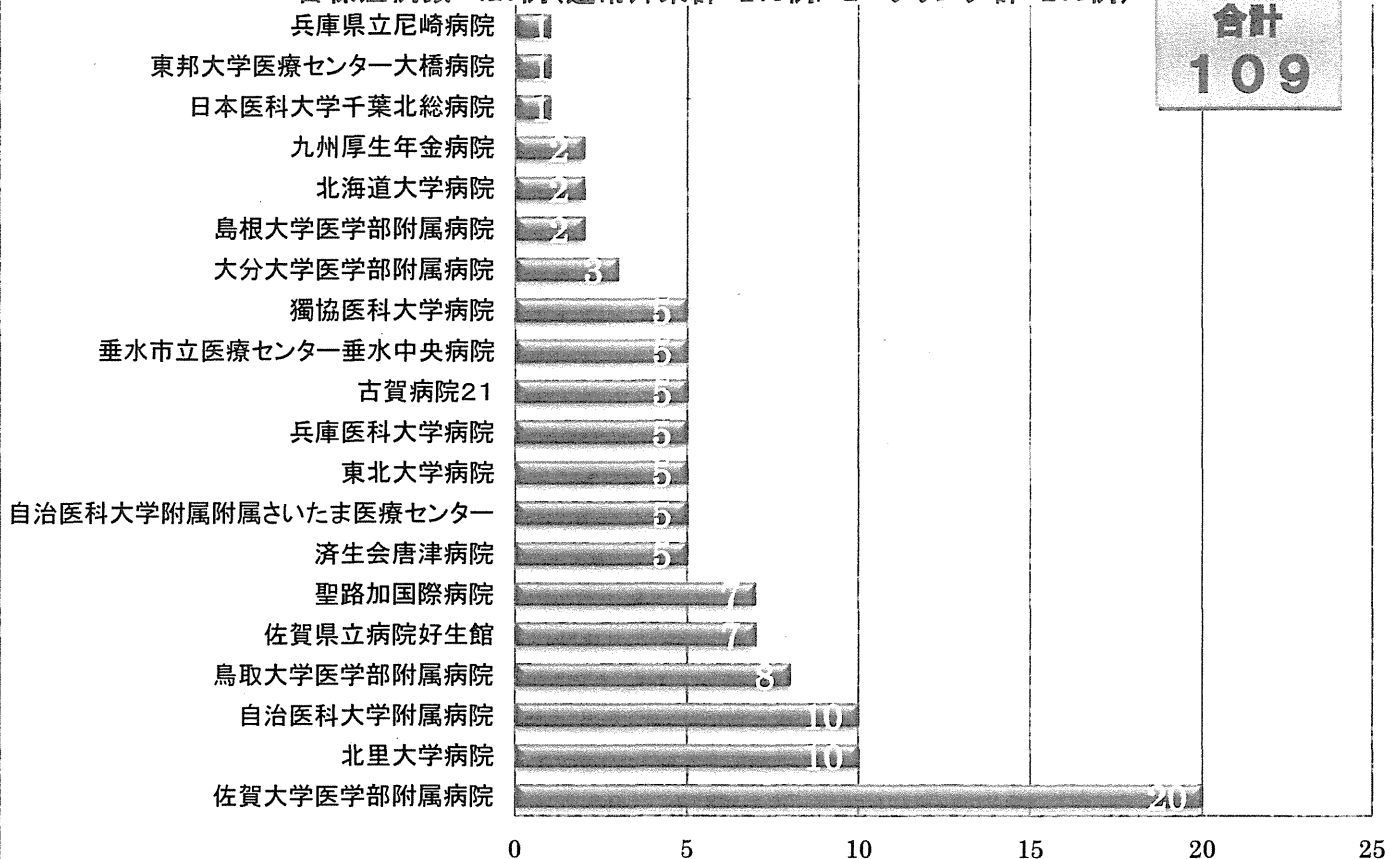
北海道大学病院	2	島根大学医学部附属病院	2
東北大学病院	5	九州厚生年金病院	2
自治医科大学附属さいたま医療センター	5	済生会福岡総合病院	
自治医科大学附属病院	10	古賀病院 21	5
獨協医科大学病院	5	佐賀県立病院好生館	7
日本医科大学千葉北総病院	1	(ひさのう内科・えとう内科)	
国際医療福祉大学病院		佐賀大学医学部附属病院	20
聖路加国際病院	7	(ひらまつ病院)	
東邦大学医療センター大橋病院	1	済生会唐津病院	5
北里大学病院	10	伊万里有田共立病院	
国立循環器病研究センター		大分大学医学部附属病院	3
兵庫医科大学病院	5	垂水市立医療センター垂水中央病院	5
兵庫県立尼崎病院	1		
医療法人社団 勝谷医院		<b>合計</b>	<b>109</b>
鳥取大学医学部附属病院	8		

前回:93例

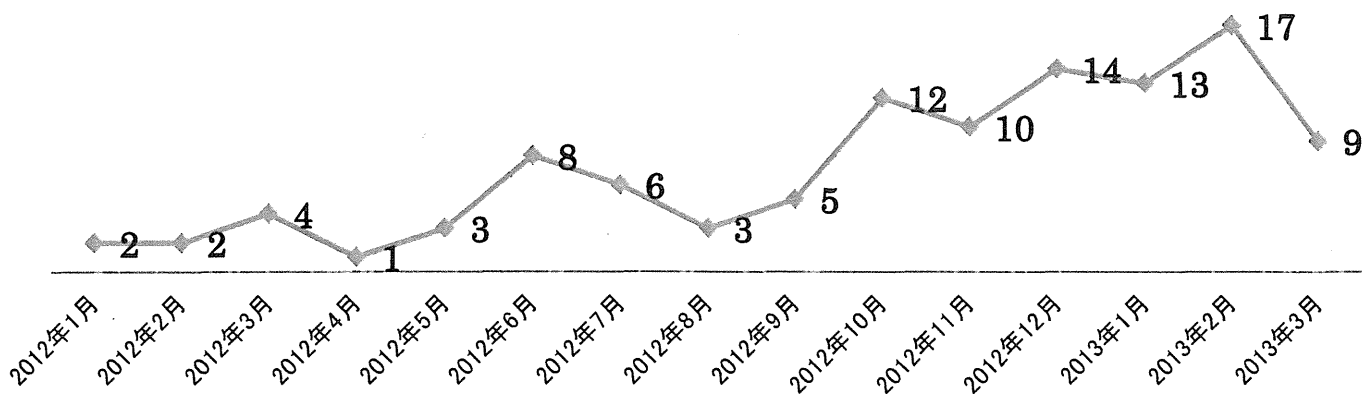
※目標症例数 420例 (通常外来群 210例 / モニタリング群 210例)

※症例登録 2013/8/31 まで

目標症例数 420例(通常外来群 210例/モニタリング群 210例)



月別症例登録状況



1例目の登録から早1年が経過いたします。1年後の調査項目は登録時同様、項目が多くなっております。また別途、医療費調査のご相談もさせていただきますので、御協力よろしくお願いいたします。

登録後1年を経過した後も、試験終了までイベント・有害事象の観察を継続いただきますようお願いいたします。

また、イベント報告後も、試験終了まで可能な限りイベント・有害事象の観察を継続いただきますようお願いいたします。